

仙台市が目指す 「エネルギー自律型のまちづくり」 ワークショップ



まちづくり政策局
防災環境都市推進室





エネルギーの地産地消を目指して

東日本大震災では、大規模・集中型のエネルギーシステムの脆さが露呈しました。仙台市では、災害に強くエネルギー効率の高い分散型エネルギーの創出や再生可能エネルギーの導入を図るとともに、環境負荷の小さい次世代エネルギーに関する先端的な研究開発を推進しています。

1 防災対応型太陽光発電システム

- 指定避難所への導入
- 民間防災拠点再生可能エネルギー導入補助

【防災環境都市】
(拠点づくり)

2 エコモデルタウンプロジェクト

- モデル地区(田子西地区、荒井東地区)におけるエネルギーマネジメント取組推進

【防災環境都市】
(コミュニティづくり)

3 次世代エネルギー創出促進事業

- 創エネルギー導入促進助成制度
- 藻類から創る画期的な次世代エネルギーの研究

【防災環境都市】
(研究開発・実証)

Ⅱ 発表内容と講演者紹介

1 防災対応型太陽光発電システムにおける次世代型防災対応エネルギーマネジメント

東北大学金属材料研究所 特任教授 河野 龍興氏

(仙台市との関わり)

防災対応型太陽光発電システム事業者や
エコモデルタウン事業について専門的な
知見を頂き各事業の推進に貢献している。



2 微細藻類から創る画期的な次世代エネルギーの研究開発

筑波大学生命環境系 教授 鈴木 石根氏

(仙台市との関わり)

筑波大学・東北大学と本市による連携協定
に基づき、次世代エネルギーとして期待さ
れる生活排水から石油成分等を生産する
「藻類バイオマス」の研究を進めている。



※ 展示ブースにおいてパネル、サンプル等の展示も行っています。